京都大学新聞
学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
京都⑦8111 ⑯2054（学内142甲）
振替・京都3909
1部（15円）

中華料理
ご行楽のあとの憩いに
京都 ふあんてん
本館 三条木屋町
別館 木屋町御池下ル

9.17教養部自治委員会

市電 市バス 料金値上反対を決議

9.20 一万人集会参加
小選挙区制反対、ベトナム人民支援も

休暇あけ最初の教養部自治委員会は、この九月中にも市議会において強行されようとしている市電、市バス料金値上問題、ベトナム反戦運動をめぐって激しい潮流間の提案、討議の末、結局九月二十日、全京都一万人集会参加（常任委員会提案が決定されたが、学生一般の盛り上がりはまだまだと言えよう。

第二回教養部自治委員会は十六日午後三時から教養部四十番教室で開かれ、「市電、市バス運賃値上げ反対」「ベトナム人民支援」を中心とした九・二〇「全学連」統一行動参加を決議し、午後七時頃閉会した

この日、四十番教室に前期試験の始まる直前であったが百四人の自治委員が参加し、最初から、会は激しいヤジと怒号のうちに始まり、各派の対立を如実にあらわした。議事は湯山同学会委員長の「全学連参加報告」「ベトナム支援闘争の教養部での具体化」などの話のあと、岡本教養部委員長の「府学連大会報告」が行われた。ついで、各派、常任委員会の方針提案が行われた。統一会議グループ提案の「十月二十一日、総評ゼネスト共闘ストライキ」「十月十四日青年行動委員会統一行動参加」常任委員会提案「九月二十日全京都一万人集会参加」「ベトナム人民支援五十万円資金カンパ」「市電、市バス値上反対署名」、教養部闘争委員会提案「九月二十一日全学連再建統一行動、府学連参加」などがめだった。

ついで採択に入り、「小選挙区制反対」「市電、市バス料金値上反対」などのスローガン採択のあと行動方針採択に入り、常任委員会提案は、賛成五十五、反対三十三の過半数で可決、その他、統一会議提案、教養部闘争委員会提案、革新派提案L1自治委員会提案はすべて否決された。

同学会学生部長話し合い

11月祭期間延長は流産？

同学会は去る十二日、午後三時から学生部長室において、学生部長ら学校側と十一月祭、七十周年問題についての話し合いを行い、同学会からは、十一月祭の名称変更、期間の延長、七十周年記念事業、構内整備計画などを明らかにすることなどを要求が出された。

学校当局は、十四日、学生部委員会を開き、この問題を討議したが委員会の意向は十一月祭（従来の大学公式名称は〝京大文化祭〟）の名称変更はさしつかえない。また、期間延長の件は、不可能であるとなったもようである。なお、二十七日の学部長会議で正式に学校当局の態度は決定する。

サルトル氏来日
京都でも講演会出席

実存主義哲学者・作家として有名な現代フランス思想会の大御所、ジャン・ポール・サルトルと「第二の性」の女流作家、シモーヌ・ド・ボーボワールの両氏は九月十八日午後、羽田着の日航機で来日する。

これは慶応大学と京都人文書院の招へい委員会の招待によるもので、講演内容と日程は以下の予定である。

▽二十日午後四時〜六時、慶応義塾大学三田校舎にて学術講演。「今日の女性」ボーボワール。「文学と言葉」サルトル。

▽二十二日午後一時〜三時、日比谷公会堂。「作家の政治参加」サルトル。「女性における創造」ボーボワール。

▽二十七日午後一時〜三時、京都会館。「演劇について」サルトル。「小説と現実」ボーボワール

▽十月十五日、ベ平連（ベトナムに平和を、市民文化人連合）のティーチ・インに出席。

研究所取壊跡、うしろは生協吉田食堂

三高の影また消える
教養部木造研究室取壊

教養部西門前にある三高時代からの建物木造研究所がとりこわされた。縦約四十米、横約六十米の敷地の建物だった。解体費用は、施設部企画課によれば、六十六万円とのこと。七月中旬に工事を始め、八月末には完了。旧建物は実験室、研究室に利用されていたが、今後グランドにされる予定。

劇団秋期公演
薔薇「ゴドーを待ちながら」

演劇集団薔薇は秋期公演に春に続いてS・ベケット「ゴドーを待ちながら」を十月十日から十六日にかけて京大西部講堂で行なう。また創造座・風波は現在の所いずれも脚本検討中の段階であり、正式決定は二十日以降になる予定である。

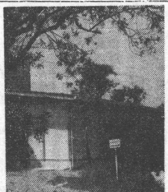
京大第5次アフリカ学術調査隊

野生チンパンジー 飼づけに成功

京大アフリカ学術調査隊＝KAURA（伊谷純一郎隊長・動物学助教授）の第五次調査隊は、タンガニーカの西田隊員から野生のチンパンジーの飼づけに成功したとの報告を送ってきた。京大本部の方には詳細は報告されていないが、伊谷隊長らが帰国して、十一月には、第五次調査の報告をすることになっている。

同調査隊は三十三年からアフリカのウガンダ、タンガニーカ、タンザニア方面での野生のゴリラやチンパンジーの生態調査に調査隊を派遣し、多くの成果をあげているが、調査隊は、類人猿班（チンパンジー・ゴリラ）（人類班）に分かれており、今回は、類人猿班の西田利貞隊員（理大学院）が、長年、同調査隊の課題であるチンパンジーの個体識別のための飼づけに、ついに成功したものである。

なお、チンパンジーの個体識別に成功しても、複雑な野生社会を構成しているチンパンジーが飼づけによって変化がおこるものとみられており、他方自然状態の生態研究も続けるとのことである。



完成した保育所

9.3 保育所開設

京大病院構内の西側に、保育所が新設された。本部経理部用度掛の話によれば、坪数四三・七五坪、建設費三八四万円である。竣工日は四十一年八月三十一日、開所日は九月三日とのこと。ピンク色のパネル式建築で平屋である。

複眼時評
季節の移り
岡田節人

私の専攻は生物学であるけれど、講義したり研究していることは細胞とか、たんぱく質とかだから、いわゆる「生きもの」についての知識は恥しいことだが皆無に近く、アマチュアの「生物好き」に劣ること格段である。しかし、生物学を専攻するに至った遠因をたどると、子供の頃の「ムシとり」と無縁ではなさそうだ。いずれにしても、この遠因なるものと隔絶してから長らくになる。

それが今年になってわが家の息子が急に「虫集め」にかんかんになり始めて、親父にそのお相手を求めて止まなくなったのである。自然が日々破壊されるし、昆虫共も農薬の進歩やらで親父の方の子供時代に比べると全く影をひそめているこの頃であるけれど、京都の住宅地は東京や大阪に比べたらまだ恵まれている。息子はわが家の周りでアゲハチョウやモンシロチョウ程度は精出して採っていたが、「もっと、甲虫や何やらいるところはないか」と親父をせっつき始めるに至った。そこは「昔とった何とか…」やらで親父のオーソリティにかけてもと、適当な場所をそれとなく物色したあげく、絶好の採集地を発見した。それは、わが家の近辺に、国際会議場に通ずるように開かれたドライブ・ウエイである。だいたい、甲虫どもは夜、燈火に集まるから道路にそって立てられた灯はまさに絶好の「虫集め機械」であるに違いない。予想通り、いるわ、いるわ、クワガタムシやらカミキリムシの仲間やら、昼間ならお目にかかれそうもない奴がウジャウジャしていて、息子と同じ程度にまで親父まで大喜びということに相成った。

かくして、この夏中は五日に一回位の割合で、この物好きな親子は夜な夜な国際会議場の周りに出現することになった。私は、どうもあの会議場の大げさな建築が好みにあわぬので、昼間に中をのぞいてみる気もないし、息子たちは、あのドライブ・ウエイは「虫集め」のために出来たものと錯角でもしているらしい。ラスク長官とやらが会議に来ていても、スケジュールは止めるわけにいかず警戒のポリさんから、「一体何をしておられるんですか？」とうさんくさそうに尋問？される始末である。

しばらく続けると、採集される種類がどんどん変ってくる。八月七日頃を境にして、それまで、どんどん集っていたミヤマカミキリやヒラタクワガタが姿を消し始めた。「あ、もう秋がきた」というが、ふと心に感傷をよぶ。八月も十五日を過ぎると、クロカミキリという奴を最後に、あれ程息子（親子というべきか）を楽しませてくれたクワガタムシやカミキリムシは完全に消え去る秋だ。「毎日お暑いことです」と挨拶されても、こちらはとんちんかんに「もうすっかり秋になりましたね」などと答えている。理由はめんどうだから説明しないが—。

かくして、ガムシという水にすむ甲虫の大群の飛来をしめくくりとして、この親子の奇妙な日課（夜課というべきである）は終り夏休みも終った。息子の方は三つの標本箱を親父に学校へ運ばせた。そして親父の方は、改めて今年の夏ほどに「季節の移り」に心動かされた年はかってなかったことに気がついた。詩才があれば「季節の移り」は心に深くふれ、それを詩に文に表現する喜びがあるだろう。そのような才がなくても、この物好きな夜課！は、私に思いがけぬ喜びを与えてくれたようである。

親父の方は生物学を専攻しているといっても、それは核酸とやらたんぱく質の話である。そして、人間の教養として、こうした新しい生物等の知見か、もはや専門的なものに止らず、何らかの形で高等学校程度の教科に採用されるべきであること度々力説している。しかし、そんな生物学を一応さておいても「生きもの」について、その一部でも—トリでもムシでも一寸した知識を深めておくことは人生に思いがけない喜びを与えてくれるかもしれない。芸術や文に才能のあることは自然から大きな喜びを摂取する特権でもあろう。しかし、もって生まれたこのような才がなくても、少しばかりの「生きもの」についての知識はだれにでもこの喜びを受けとれる機縁になっているらしい。（理学部助教授・動物学）

就職状況

出足遅れる
薬学部

薬学部の今年度の卒業予定者七十人中男子就職希望者は大学院入試受験者を除いて殆んど内定しているが、最近の産業経済界の就職者選択傾向を反映してか女子就職決定者が例年よりも少い。女子就職希望者の中には官公庁を希望する者もいて、それらの試験期日が遅いせいもあり決定がおくれているのも一因。現在決定者の就職先は例年通り医薬品関係が主。

新寮協議会発足
全寮連中執の誤った指導に抗して

去る七月二、三日、全寮連大会での暴行事件（民青執行部の暴力的な議場占拠事件）以来、寮運動のなりゆきが注目されていたが、東京学芸大学雄迦寮、東京大学学生会館、お茶の水大学大山寮などが中心に「新寮協議会」を結成し、今後全国的な、アンチ全寮連執行部活動を展開していくことになった。そのめざす方向は「一、全寮連書記局の誤った指導を弾劾し強固な寮運動をすすめる。二、既成の全寮連の組織内活動を公然化し「〇管規定」「負担区分」撤廃の独自な運動を行っていくなど。

無残な雨ざらし……
寮は新しいが、玄関は自転車で一杯／新しいのも1年で赤錆る

■学新をめぐる動向■

東北大 東北大新聞社が新発足

東北大学新聞九月五日の号外によれば「七月九日学友会総務部役員会は突然『新聞会公選制』なる〝決議〟は『規約』からいっても実効性を持たないこと、総務部役員会は学友会翼下の団体の内部的改組にまで介入する何らの権利も持たないこと『公選制』新聞は不可能であること、その他一切の状況がその〝決議〟なるものが不当であることを証明している。だが、我々はこのような主張を学友会に何らかの地位を維持するために行うのではない。ただこのような無茶な〝決議〟が一部諸君の「民主主義」という〝神聖〟なヴェールをかぶった〝多数決〟によって強行されたという、その一点に全ての問題が凝集しているからに他ならない　それはあまりにも露骨な組織破壊攻撃であった」として、東北大学新聞会は東北大学友会から脱退して、新たに東北大学新聞社として発足することになった。

東北大学新聞会は学友会成立以来学友会に属して新聞を発行していたが「『東北大学新聞』を学友会の機関紙にせよ」という意見が現在の学友会からの部に出てきたことを契機に、離脱を決意をしたもので、東北大学新聞に対するこれまでさまざまな圧迫や妨害も行なわれてきたといわれている。即ち、東北大学における、学生自治会の主導権が民青系の手にわたり全学的な民青支配が貫徹されると民青に対して批判的な新聞会に対し、活動を妨げる方向に出たものであるらしい。既に、このような民青の、民青に敵対するものに対しての圧迫と妨害とは、北海道大学新聞においてもあらわれており北大新聞という名前も全く同じの民青系学友の手による第二新聞が出ているところもある。その他香川大学では大学新聞の編集長を全学投票で決めるということが決議されたところもあり、（民青年学友の大学新聞に対する、さまざまな圧迫が加えられつつある。或いは名古屋大学新聞では、反民青的な記事は一行も見られず、全学を支配している民青の機関紙的色彩を帯びているところもある。

このような新聞は他に横浜市大新聞、岩手大新聞などがあり、全学ぐるみの民青系のさまざまな運動が展開されているところである。

大学新聞に対する不当な圧迫と妨害は、私立大学に見られる大学当局側からのものもあり、これは上智大学において見られたものである。このような大学では、自治会費から新聞印刷代を捻出したい、もしくは新聞代の強制的取りたてによって経営を支えているため、自治会執行部と新聞編集者が意見が異なると、印刷費が予算に計上されないという場面をあちこちでひきおこしている。

大学新聞のあり方にはいろいろあろうが、一般に自治会の教宣部隊としての自治会御用新聞＝機関紙という図式は、すでに破産した学新運動としてであり、学内におけるリベラルな発言の場を保証するという意義や文化サークル運動の一環としての存在など、決して一面的な政治的脈絡でもってしては、断ちきれない問題を内包しているが今後の東北大学新聞社の動向が注目されている。（編集部・東北大学新聞八月五日号）

京大人事

昇任　化学研　助教授　岡崎啓[illegible]（化学研文部技官）
配置換　工助教授　柴田徹（防災研助教授）　工助教授　竹原善一郎（工教助教授）

こくばん

大学生の犯罪白書のようなものが週刊紙上で取沙汰される。「一に〇〇大学、二に××、三に△△」とかいわれる中にはさすがに国立大学は入っていないらしい。学生の犯罪はその大学のマスプロ度数のバロメーターでもあるのだろう▼さきごろ工学部のT君が大阪で婦女暴行未遂とやらでつかまった。高校時代の同期生である私は「どうもお前の出身校は」などといわれるので喫茶店で週刊紙を読み漁っているような連中にはし話かけられないよう気をつかっている。▼「痴漢に豹変した東大・京大生」とかいう見出しであった。希少性が高いだけにニュースバリューがあり面白おかしく読まれるのであるから「一部の低級の奴が」と同じ京大生である以外は人種まで違うかのように潔癖ぶっている連中のことばに間違いはない▼あやふやな知識や技能でさえ大学さえ出ればあてがわれたセックスと食物を消化することが許されるのであるからご法度を破った彼は異常な犯罪者であることは確かだ。「われわれ」にとって「はみ出す」ことほど馬鹿げたことはないのである。意識の突出部にひっかかった情念を行為に転化させる単純なオートマチズムは憐れな奴である▼「暴行」を欲求不満という個人的な性体験の未熟さに帰因させることは容易である。「暴行」という一方的なセックスの押しつけによって始めて彼の日常性を破壊し緊張した日々を回復することを図ったのなら「われわれ」は彼の果敢な特攻精神を嘲わなければならないのだ。閉塞した状況の中での陳腐な創造を批判するのは芸術においても犯罪においても「われわれ」の自由である。▼サドの愛読者であるという彼の暴行の動機は知らぬが、ただ私は靴の紐も自分で結べぬ奴より彼が好きだ。

特選法律経済書展示会
期間　9月15日〜12月15日
展示会場　オーム社京都支店　大垣書店　山崎宝文堂　ナカニシヤ
主催　法経会　勁草書房　春秋社　中央経済社　日本評論社　東京大学出版会　東洋経済新報社　白桃書房　森山書店　有斐閣

●海外留学を志す若人にサンケイ新聞社が贈る！
海外留学案内
〈付〉サンケイ・スカラシップ試験問題例と解答
サンケイ新聞開発室　編
本書は留学志望者の熱望に答えて、サンケイ新聞社が海外留学のすべてを述べた海外留学案内の決定版!!
〔B6判・発売中・四八〇円〒70〕
サンケイ新聞出版局　大阪市北区梅田町27・電(361)1221・振替大阪62112

合同出版
エルンスト・フィッシャー　畢生の名著
若い世代の問題　―順応か反逆か―
佐々木基一・好村富士彦　訳　六八〇円
ベトナムのアメリカ人（仮題）　小田実　編　二五〇円
マーシャの手記　―もうひとりのアンネ―　マリア・ロルニカイテ著　飯田規和訳　340円
K・マルクス著　花崎皋平訳　新版　ドイツ・イデオロギー　280円
東京都千代田区神保町1―52・振東京65422番

青春のエネルギーと知恵で〝明日の国ブラジル〟に体当り！
大槻洋志郎・本間久靖　共著
アデウスにっぽん　☆★若さとバカさの挑戦★☆
B6判・286頁・430円〒70
日本図書館協会選定図書〈松竹映画化決定〉
七歳の捕虜　光俊明著　四五〇円
東京神田駿河台1〜2中正ビル　本田書房　電(294)3618〜9　振替東京62488

サルトルの全体像　●日本におけるサルトル論の展開
編集＝竹内芳郎・鈴木道彦　A5判430頁・980円
サルトルの文学　●その理論と作品　小島輝正著　46判370頁・680円
東京文京本郷2-30-14　ぺりかん社　振替東京48881

□化学書の三共出版が2学期におくる必備書
化学ドイツ語の解釈研究　橋本吉郎／川本正良著
化学英語の解釈研究
最新化学語辞典（英日・日英）
化学独逸語新辞典
実用化学対数計算表
東京都千代田区神田小川町3〜10　振替／東京1065〈目録贈呈〉
三共出版株式会社

昭和42年版　新書判函入¥580(〒70)
教育小六法
東大教授　宗像誠也　推薦
最新教員採用試験問題集付！
教員採用試験受験者必読！
東京・千代田　富士見1―10　学陽書房　電(261)1111〜7　振替東京84240

爽秋に贈る東洋経済の経済書
東洋経済新報社／東京日本橋本石町／振替東京6518
体系経済学辞典　高橋泰蔵・増田四郎　責任編集
マーシャル経済学原理（全4巻）　馬場啓之助訳
雇傭利子および貨幣の一般理論　J・M・ケインズ著　塩野谷九十九訳
J・M・ケインズの経済学　D・ディラード著　岡本好弘訳
資本主義・社会主義・民主主義　シュムペーター著
図説日本の財政　昭和41年度版
昭和41年度改正商法の解説
景気変動論（上）
社会学用語解説
マルクス経済学原理
経済学
貿易実務
金融読本
日本政治史読本
現代経済学叢書　経済発展論　国民所得分析　国際経済学　価格の理論　貨幣と信用

責任編集　富山・三浦・森・山口　和独辞典
新ドイツ語講話　藤田五郎著　¥680〒70
ドイツ語の輪郭　橋本文夫著　¥600〒70
入門ドイツ語　常木実著　¥420〒70
大学ドイツ語講座　相良守峯博士監修　全六巻
橋本ドイツ語講座　橋本文夫著全三巻各¥300〒50
重要動詞とその用例　日本独文学会編　¥200〒45
小独和辞典　成瀬清・佐藤通次著　¥450〒45
ドイツ語の基礎　ドイツ文法の知識　わかりやすいドイツ語　独文解釈ドイツ文法　ドイツ語変化表　ドイツ単語二〇〇〇　ドイツ単語五五〇〇　ドイツ語基本単語熟語　接続法　ドイツ語話し方　ドイツ語会話35章　独英対照文法　独文解釈の研究　独文解釈の演習　ドイツ文の構造　ドイツ語の鍵　現代独作文
郁文堂出版　東京都文京区東大正門前　振替東京14981番

花見達二著〈政治評論家〉
日本は狙われている　新書判二七〇円〒50
谷口清超著
純愛は勝利する　46判上製　五二〇円〒70
日本教文社　東京・赤坂9丁目　振替東京55519

自由と幽閉者への転移
―「釜ケ崎」の眼と「釜ケ崎」をみつめる眼―
井上俊夫

「ドヤ」と「権力」の間の断層
被虐的歴史観と「自由」の意識

◇◇「ある放火事件」◇◇

ちかごろ大阪市大の体育館が全焼した。ここには柔・剣道、山岳など十五サークルの部室があったため、焼け出された学生たちは途方に暮れているという。とくにヒマラヤ遠征当時の貴重な資料まで失ってしまった山岳部員の落胆は大きく、そのため全国に散在しているOB会員たちが早速再建カンパをはじめて、彼等を激励しているという美談もある。

いまにして思えば、この火災の原因が放火であり、しかも犯人は釜ケ崎の労務者であるという見当が、捜査当局にははじめからついていた。犯人D(三)は、事件から八日後に釜ケ崎のドヤ街であっけなく逮捕されている。

釜ケ崎の労務者がなぜ大阪市大の構内などへ入ったのか。釜ケ崎事情を知らない人には不思議な現象にみえるかもしれぬが、Dは別に潜入したわけではない。Dはれっきとした日雇労務者として物理、化学実験教室の配水管工事をよくするために行ったのである。もちろんDをつれて行ったのは、釜ケ崎の「自由労働市場」で彼のような安価な「労働力」を購入した下請けの建設業者である。

釜ケ崎の労務者が独占資本クラスの企業を筆頭にした大小無数の業者によって利用されている以上、ここの労務者は大阪府の全域、それに兵庫、和歌山、奈良、京都といったところにまで就労して行くのである。つまり、いうところの「釜ケ崎地区」は夜になると西成区のドヤ街に収斂されるが昼間はおもいもよらぬところにまで拡散されているわけであり、大学と労務者といった一見して無関係な二つの存在が、今回のような不幸な出来事によって突如結縁させられるのには、それなりの必然性があったのだ。

その日、Dは大学構内で配水管工事をしている際、土中に銅線約一㌔が埋まっているのをみつけた。これは労務者がいうところの「ヒカリモノ」であり、低賃銀にあえぐ彼等の有力な副収入源である。だが、これを仲間たちと分割するにしては、あまりにも獲物が小さすぎた。Dはこれを作業現場に近い体育館にかくした。そして仕事がはててから駅前で酒を飲み、彼一人だけで再び大学へとってかえした。

守衛の警戒線は「忘れものをした」という口実でくぐりぬけた。午後八時ごろというからには、既に日はとっぷりと暮れている。体育館に入ったDは、珍しい運動器具をみつけだし、それを相手に無心に遊びはじめた。しかし、はじめからDの行動に疑惑の眼をむけていた守衛がそれをとがめ、早く立ち去るようにときびしく注意した。

その守衛の態度に腹を立てたDは、守衛が去ったあと、新聞紙をあつめて放火したという。Dの犯罪はあきらかに非計画性のものである。したがって放火の方法も単純拙劣で、おのが行為がもたらす危険性や、あるいは発覚の可能性などについて特別の注意をはらったあとはほとんどない。飲酒していたので、罪悪感が非常に稀薄になっていたであろうことも、容易に推察できる。

だがDは精神異常者ではない。釜ケ崎へ行けばいくらでもおめにかかれる平凡な労務者の一人にすぎない。Dの放火は守衛に対する反抗が直接の契機になっているが、もちろん潜在的な動機はいくつも考えられる。日頃、釜ケ崎のアンコとして社会から差別され疎外され、低賃金と孤独なドヤ生活によって、Dのパーソナリティがかなりゆがめられたものになっていたことも事実であろう。あるいは一度棄てたはずの故郷、あるいは一般市民生活へのノスタルジャーといったものが、放火の因子として強烈に作用したとの仮説もなりたつ。

◇◇「インテリ」への反感◇◇

しかし私は、大部分の労務者が抱いている「大学」という存在に対する反感と憎悪が、Dの内部で突如爆発的に高揚してきて火をはなったという見方も採用しなければならないと思う。「大学」や「大学出のインテリゲンチャ」に対する反感と憎悪を、旧日本軍隊の労農出身の兵士たちが根強く持っていた話は有名であるが、今日それをそっくり釜ケ崎の労務者たちに見出すことができるからだ。

労務者からみれば、今日の「大学」は彼等とは全く無縁の存在である。それのみか、彼等の不遇な生涯につきまとってはなれることのない「無学歴」というハンディキャップを相対的に生産し、おしつけてくる憎むべき対象なのである。また警察や役所について、明確な権力の象徴としてもとらえられている。もちろん、こうした労務者の「大学観」のあやまりを指摘することはたやすい。しかし今日の大学が所有する進歩と反動の二面性、あるいはその複雑多岐な機能性といったものを労務者にむかっていくら説得しても、彼等はついにききいれることがないだろう。彼等の「大学観」は被虐的な民衆のきわめてリアリスティックな歴史観からみちびきだされてきているからである。

◇◇「自由」からの逃走◇◇

皮肉なことには、放火された大阪市大は、関西に数ある大学の中でも、特別に研究室をもうけて熱心に釜ケ崎問題ととりくんでいる唯一の学園である。いうなれば、Dの行為は天にむかってつばきしたという側面を持つわけだが、Dは永久にそのことを理解しようとしないであろう。

今後のDに待ちうけているものは、恐ろしい拘置所生活、「大学出」の裁判官、検事、弁護士たちによっていとなまれる裁判、そして気が遠くなるような長期の刑務所ぐらしである。けれども不思議なことは、ドヤで逮捕されたDの表情は意外にやすらかであったという。こうしたDの態度はふてくされたものとして、捜査官のはげしい怒りを買ったらしいが、この時Dは一種の安堵を覚えていたのではないかと思う。

既に犯罪人としての第一歩をふみだしたDは、国家権力によって強制的に釜ケ崎の労務者生活から離脱させられるのである。と同時に、今までDが享受していた一切の自由も奪取される。しかし、自由労務者としてDに既得されていた自由とはなにか。住所不定、無登録の放浪労務者が持つものは、貧窮、飢餓、疾病、孤独、不安といった原始的な脅威に常に身をさらしつつ、時たまの飲酒や買淫、賭博等によって刹那的に体現される釜ケ崎特有のネガチブな自由だけであった。するとDはこの戦慄すべき自由から逃走するために、あえて固定的な幽閉者へ転移する道を選んだのでなかろうか。

かってE・フロムは「自由からの逃走」を書いて、自らナチズムに埋葬されて行く「さまよえる現代人」の鬼気せまる内的世界をあばきたてたことがあるが、Dの行為にそうした徴候がいささかも無いと誰が断言できよう。いわゆるルンペン・プロレタリアートの感覚は、迫りつつある或る種の現象に対して異常なまでに鋭敏であることを思いだしたい。（詩人）

学園評論

市電市バス料金問題について
公共料金値上げが意味するもの

…一…

第三次長期計画の大義名分の下に、国鉄はすでに史上最高の値上げ（二五％）を行ない。これが貨物輸送において一二％、旅客運送において三一・二％という独占資本優先の大衆収奪の最も典型的な経済政策の一つであることが、昨年十二月以来二月に至る府学連の国鉄運賃値上げ反対闘争の中で暴露されてきた。一方で消費者物価の高騰が三五年以来続いてきており、四十年一月に米価の大幅な引上げ、六大都市のバス運賃値上げ、医療費の値上げ、十月には新聞代、ビールの値上、四十一年七月の郵便料金値上げ等々に見られるさまざまな値上げ問題は、日本資本主義の構造的長期的危機と相俟って行きつくところを知らぬ様相さえ呈し始めている。あるいは早大授業料闘争において顕著な如く、戦後、一貫して上昇曲線を描きつつある授業料は政府のとってきたインフレ政策により、独占資本に奉仕した賃金の相対的な引き下げによって生活を圧迫してきた、反人民的性格を根底に据えつつ、大学経営の困難さを設備投資＝設備拡大の中でマスプロ教育への逆転という表現をとることによって引きあげられてきたのである。

一般にこのような種々の値上げ問題が根源的に、どこから由来するのか、またそれは何故に行なわれなければならないかということを問う時に、問題は、現在日本資本主義が内包する、経済的、社会的機構にまで遡源しなければ把握しえないことをまず第一にふまえておかねばならないであろう。山陽特殊鋼、山一証券などの倒産の例を引きあいに出すまでもなく、信用経済機構まで波及した日本資本主義の内的脆弱性は、日韓条約批准に見られる後進国市場の確保や企業防衛における自己資本の充実を要請せざるを得なくなってきており、設備投資主導型経済から財政政策への転換の局面において、より高度なより露骨な大衆収奪が国鉄運賃値上げを初めとして開始されつつある事実を見逃してはならないであろう。

…二…

現在の物価上昇は公共料金に主導されている。今度、九月下旬の京都市議会に上程されようとする市電市バスの料金値上げと、これに付随する一連の合理化構想は、地方自治体の赤字そのものが、日本資本主義の構造的危機をのりきるための内需拡大の役割をも果していることを示すものであり、また、新産業都市体制と見られる基幹産業の再編成過程での、水道、鉄道、ガスなどの公共部門との結合において、地方自治体の赤字が公共料金の値上げ（態のよい大衆収奪に他ならないが）によって代償を強行されつつあるという事実を見るならば、今回の値上げ問題が単に京都という一地方のみの現実ではないことが理解されるのである。即ち、池田政権の高度成長経済政策の諸矛盾が顕現化するに及び、佐藤内閣は、公共料金値上げを以ってこれを制御する政策とし更に一方で企業減税を唱導しつつ産業拡大内需拡大の観点をも含めて、国家財政、地方自治体財政をフルに動員しての、道路港湾整備、通信、運輸への公共投資増大と整備合理化を要求してきたのである。このことは高度経済成長がもたらした経済のゆがみが単なる小手先だけの物価対策だけではおさめきれない、根本的な矛盾に由来しており消価物価の上昇メカニズムが転倒した政治対策に由来することを示すものである。

消費者物価は三五年度三・八％、三六年度六・二％、三七年度六・七％、三八年度六・七％、三九年度四・八％、四十年度上半期八・四％と上昇しており公共料金が値上げが行なわれれば、他の物価がこれに比例して相対的な上昇がおこるという悪循環がくり返されてきた。公共料金値上げが地方自治体の赤字解消の一方策としてとられ、制度的には地方公営企業法という法律によって保証されつつも、それが現在の日本資本主義の内的脆弱性と諸矛盾を隠蔽するものでしかないということ、公共料金の値上げが消費物価の上昇を促し、物価上昇要因の一たるにとどまらず、生活そのものを危機に陥しめる極めて露骨な大衆搾取と収奪の表現をかえた日本独占資本の要求にすぎないことなどの点において、極めて犯罪的なものといわざるを得ないものである

…三…

地方公営企業法によれば「地方公営企業は、常に企業の経済性を発揮するとともに、その本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されなければならない」（経営の基本原則・第三条）のであり、「地方公共団体は、地方公営企業の給付について料金を徴収することができ」「前項の料金は公正妥当なものでなければならず且つ、これを決定するに当たっては、地方公営企業の収支均衡を保持させるように適切な考慮が払われなければならない」（料金・第二一条）ものとされている。しかし、このような法律が現実の生活にもたらすものは、窮乏する消費生活への圧迫と、生活そのものの破壊であるのだ。公共料金値上げという大衆収奪こそは、政府独占資本の危機的状況の裏返しの、反人民的政策以外の何物でもない。

日本資本主義の経済不況は進行しつつあり、独占資本の再編成と企業の体質改善が中心課題となりそれに見合った国家の経済政策が強く要請されており、資本の整理集中として展開される生産過程の合理化は、労働者階級への大規模な人員整理、労働強化をもたらし、また賃金凍結、切下げの動向は大衆収奪の強化と共に全般的な生活危機を進行させている。このような国内経済情勢と現時点における市電市バス料金値上げ問題を考察するならば、決して京都における局面的現象でだけではあり得ないことがわかると同時に、その背後に意図された政府＝独占資本の反動的性格が暴露されるのである。

市電市バス値上げは、以上のようなさまざまな不合理と矛盾を暴き出し得ないが故に、逆に強行採決という非常手段によって行なわれることも予測されるが、値上げ反対闘争の強力な統一的な運動の展開のみがこれを阻止できるものであり、今後の物価問題にも影響を及ぼすのである。

学園論壇

投稿歓迎・テーマ自由　400字詰原稿用紙５枚程度、郵送もしくは本社まで持参

「反」進歩の思想再論
―現代と自由と共産主義―
菅原宏通

現代では全く相矛盾するものが、お互いに絶対的真理であり、正義だと主張してやまない。そこでは、事の成否を窮極的に決定するものは実力であり、組織の強弱である。それ故、現代では真理を守るための手段たるべき組織がいつのまにか目的となり、組織のための組織が求められる。こうして「真理への意志」ではなくて「権力の意志」が濶歩する。即ち、真理という質的なものが単なる量の大小によって測定されるのだ。

人々は現代の虚無に真正面から対決することを恐れ、できるだけ大きな集団の中に入って、虚無の現実から逃れようとする。お互いの慣れ合い意識の中から形成された集団の価値観が絶対なものとみえてくる。ここでも、絶対を主張しあういくつかの集団がぶつかりあい、お互いに「鉄の規律」をもって、更に組織を拡大しようと努める。

我々はもはや個人本位の生活を送ることはできない。ニヒリズムの不安がつきまとうのだ。我々は他人と結合するか、協力するか、団結するか、とにかく集団と化さなければ生きてゆけなくなったのである。個人主義＝自由主義に全体主義がとって変ろうとしている。全体主義国家に自由などあるはずがない。何故なら、全体主義は自由主義に対する反省から生じ、その否定の上にのみなりたつからなのだ。

現代の特徴は、高度に組織化した集団をつくり、それを更にいやが上にも大きな集団に仕立て上げようとする努力である。その集団が社会・階級・民族・国家的なものであれ、そこでは人間人格は集団の中に埋没し、集団の秩序・目的の為にはすべての人間は犠牲とされるのである。

これらのことは共産主義の団体（国家）において極めて顕著である。そこでは個々の人間は「学習」という名のもとに、灰一色に塗りつぶされて、画一化される。人間は機械の部分品のように、取り換えがきくように教育されるのだ。何故なら、共産主義の理論は、人間の歴史を満たして来たあらゆる「矛盾」が解決するような時期が共産主義社会において到来するという宗教的信念を前提とするからである。即ち共産主義社会にあっては、すべてのものについて矛盾があってはならないのである。そこでは物質のみならず、人間の精神までも集団におあつらえ向きに社会化、組織化されるのだ。独創的人間はこの集団にとっては邪魔である。そこでは、人間の本性にあった社会がつくられるのではなく、社会的機構あるいは為政者の目的にあった人間のみが生存を許されるのだ。正に、足に合った靴を作るのではなくて、靴に足を無理にでも合わせることが要求される。中共の整風運動はこの観点からも考察されなければなるまい。

しかし、人間の精神を完全に社会化することは不可能である。何故なら、精神とは不合理なものだからである。ところが進歩的文明人にはそれがわからない。それは彼等の眼が物質主義と科学主義の迷妄で曇っているからなのだ。

進歩的文明人はその物質主義によって、精神が現実であることを認めない。だが、目に見えるものの実在については何の疑いもいだかない。こうして、模写説的認識論によって精神を物質に還元し、物質によってのみ精神の自由は保証されると考えている。だから、彼等は物質の獲得（今はその手段として権力の獲得）に奔走しており、物質あるいは権力獲得のためには他人を自己の手段にしようと目論んでいる。もしそうでない自称共産主義者がいたら、その人は「自分が貧しいから、すべての人間は貧しくなれ」という嫉妬の鬼であり、戦中には「死なばもろとも。後は野となれ、山となれ」式の無責任な言葉を吐いた人に違いない。私はこのような人々に社会改善を望むことはできない。

最終的な自由を得るために、現在の自由を犠牲にしても構わないというような人（国民）は、最後まで自由を享受することのない人々であり、自由など最初から欲していなかったし、自由などなくともよい人なのだ。そんな人は、たとえ相対的な自由を味わったとしても、絶対的自由を知ることはあるまい。絶対的自由とは精神的自由であり、この自由があってこそ人間は内面的に豊かになるのだ。自由の何たるかを知り、真に自由な人間は自由をスローガンにあげたりはしない。健康な人間が健康をスローガンにしないように。自由の何たるかを知らない不自由な人間こそ、自由というスローガンを掲げるのだ。病人が健康をスローガンに掲げる如く。

進歩的文明人の第二の迷妄である科学主義にとっては、すべてが客体であり、主体そのものすら客体にすぎない。この科学主義は主体と客体を分離させ、人間に対しては反省的主体を引き出す。この反省的主体が主体を客体化する。

即ち、「見られる物」＝客体に対して「見る者」＝主体の優位性を確立しようとすることが逆に、「見る者」＝主体である人間さえ「見られる物」＝客体として対象化せずにはおかない。ここに、人間行為の原理はマルクスによれば下部構造に、フロイトによれば性衝動に完全に合理化された。しかし、マルクスとフロイトによって合理化された人間は果して現実の人間なのであろうか。それは影を捕えたとしても人間そのものを捕えたのではない。しかし、マルクス主義者もフロイテストも「これこそ現実の人間の実体だ」と主張してやまない。そこでも具体的な個々の人間は一般的抽象性の中に埋没してしまった。全く個々の人間は見分けがつかないほど灰一色に塗りつぶされてしまった。

合理崇拝で毒された現代人は、科学で割り切れないものをすべてナンセンスという言葉で片付ける。しかし、我々人間は機械ではないのだ。機械には秘密がない。すべてが透明で合理的である。それ故、人間を全く合理性で割り切ろうとする思想こそ人間を機械と同一レベルに置くものである。ここでもマルクス主義は人間を疎外してしまう。何故なら、人間の機械化こそ人間疎外の原因だから。

合理主義崇拝者は自由というものを合理で割り切ろうとする。しかし、自由と合理で説明しようとしても、せいぜい功利主義的自由しか意味しないだろう。自由とは不合理なものなのだ。自由とは火だ。情熱であり、創造的精神だ。それは如何なる合理主義による必然の枠をも焼いてしまう。

悪もこの不合理な自由から生ずる。進歩主義は悪を殺す。それは小さな悪のために、人間それ自身さえ殺してしまう。何故なら、共産主義的社会とは神的世界であり、悪があってはならないからだ。しかし、人間だれしも善悪の二面性を有す。

すべては合理主義の迷妄である。合理主義では人間の情緒を説明することはできない。何故なら情緒は不合理なものである。だからこそ、人間の情緒によって認識される芸術は社会主義国では抹殺されるのだ。彼等にとって、不合理＝矛盾とは悪を意味するにすぎない。同一律より矛盾の方がはるかに豊かであることを知らない。

かかる合理主義は必ずや人間の奥底に潜む不合理なもの、ディオニソス的なものによって復讐されるであろう。否、彼等の合理主義の基礎を支えているのは不合理な暴力主義であろう。何故なら、アラースの言葉を借りるなら、価値の序列に対して不正がなされると、まさにその不正がなされた個所において、それに対する報いが来るからである。

進歩的文明人・学生は正にその未来崇拝によって価値の序列に不正をなしている。彼等のあのひたむきな未来崇拝と過去蔑視の態度は、歴史の終末における神の国の地上的到来という進歩的宗教理論に由来する。それ故、神の国であるべき共産主義社会は、苦悩と矛盾に満ちた今までの歴史とは全く異なるものでなければならない。そこでは、未来＝善、過去＝悪という単純な図式を成立させる。そこでもし、うまくいくべき共産主義社会がうまく行かなくなった場合、彼等はその原因を過去のものが現代にまで存続しているからなのだと思うだろう。その時、彼等は過去抹殺という行動に必ず出る

これは紅衛兵に限らない。終末観に満ちた日本の進歩主義者の態度というものも、過去否定という後向きの態度であって、決して未来に目を向けた建設的態度ではない。それは全く狂人の態度である。何故なら、それは人間が統一的時間の中に存することを許す記憶の決定的忘却であり、過去と全くあらゆる関連を失って行動するということ、そのことこそ狂人の特徴なのだからである。

またこのユートピア理論に由来する未来崇拝は、歴史の全過程を単に地上に至福の国を実現するための手段であるかの如く主張する。ここにおいても、過去、現在の世代は蔑視され、現在の人間の人格は自己目的なるものとして扱われず、未来に奉仕する手段・道具と看做される。人間人格はこの宗教にとって、手段であって目的ではない。人間は地上的ユートピアを実現すべき生産力発展の手段、用具、機能である。これが人海戦術の本質である。ここでも人間は機械化され、疎外されるのだ。

過去を否定しても、生産力を増大してもユートピアは実現しないだろう。たとえ、これらの二つのことが解決しても、彼等の考える社会が実現しない時、彼等は必ず他人の中に悪を見い出し、その人間を血祭りにあげるだろう。「共産主義は必ず来る。」「自分は善人だ。」「これら二つの命題が正しいなら、それは、誰かが共産主義社会の来ることを妨げていることを意味する。」「さあ、その人間を探し出し、抹殺しろ。」ということになる。要するに、彼等は自己の行動に盲目であり、単純なる「善玉、悪玉」的人間観を有しているにすぎない。マルクス主義は常に他人の中にのみ悪を見い出す悪しき宗教である。（東西思想研究会会員）

今週のベストセラー

ナカニシヤ書店　①「世界の名著49・フロイト」中央公論社②宮地伝三郎著「サルの話」岩波書店③井上清著「日本の歴史20・明治維新」中央公論社④経済企画庁編「経済白書・66年版」至誠堂⑤小泉信三著「海軍主計大尉小泉信吉」文芸春秋社

生協書籍部　①「藤村全集11・夜明前第一部」筑摩書房②梅本克巳著「革命思想とその実験」三一書房③ボーボワール著「中国の発見」紀伊国屋書店④白井浩司著「サルトル入門」講談社

京大生のオアシス
コンパ、ご宴会に、気軽に御利用下さい。"大将軍"自慢の味と値段で学生諸君のおいでをお待ちしています。
和食・洋食・中華料理
ロース焼肉
大将軍
京都駅前タワービル西　TEL (37) 8090・9073
◇お座敷料・サービス料は一切不要です

御集会・御宴会には是非！御使用下さい
三階　60名位
四階　個室15名位
●あらゆるご集会、コンパ、ご招待に是非ご利用下さい。ご予約を承っております。！
名曲レストラン　らんぶる　くまの店
□百万遍らんぶるへもどうぞ
京・クマノ交差点下ル電⑦4251

新潮社　新刊／重版　秋灯下の読書に！……話題作をお届けします。　東京都新宿区矢来町　振替東京八〇八番

夏草冬涛　井上靖　自伝的長編！　陽光を浴びて健やかに育ちゆく少年の世界――著者の若き日の体験を回想の豊かな詩情に包んで綴る。幼年時代を描いた名作「しろばんば」の続編ともいうべき力作。価520円

島へ　水上勉　最新長編！　マスコミの喧噪のなかで、かなしくふみにじられた女優甲斐節子の一途の愛――報われぬ愛のむなしさ、孤独な女ごころをせつせつと綴った水上文学の異色作である。価400円

経営日本主義　田口憲一　独特、絶妙な出光商法の謎！　イラン石油の決死的買付。世界のカルテルへの挑戦！ズバヌケタ商法で近代企業のトップをゆくキリン児出光。その強烈な個性と、壮絶な企業闘争を追求した快著。価360円

日本を考える　佐伯彰一　評論集！　二年間の滞米生活を終えた著者が、その歴史と風土に照準を置き、該博な知識を駆使して日本文学の伝統と今日の課題を鋭く探求する！他に想像力を扱った論文二編。価430円

さまざまな視覚の世界　永野為武　異色随筆！　動物の眼の構造と機能、体色変化と眼の関係、形態視や色覚等々、動物の眼の不思議を興味深い実験やエピソードをまじえ、人間との比較のうえに解明した労作である。価340円

織田信長（後）国盗り物語④　司馬遼太郎　歴史大作完結！　激しい意欲と独創的戦法で諸国統一に着手した信長。すぐれた血統と才智に恵まれながら悲運の道をたどった光秀。宿命的な二人の武将の内面に迫る白熱の終篇！価380円

特性のない男〈全六巻〉　ムジール　雄大な長編　完訳！　高橋義孝他訳　皇帝即位七十年を祝う雄壮な企て。主人公兄妹の熱愛！人間の諸相を孕みながら愛と認識の美しい思弁にみち、史上最大の個性・特性なき男を創造した大河小説。価各650円

ヘンリー・ミラー全集／第5回　プレクサス　薔薇色の十字架―第2部―　大久保康雄訳　若妻とともにくりひろげる奔放な性の狂宴に、原初的な人間存在の姿をたしかめつつ、性の大道を闊歩する巨人ミラー。人間の真実を距す戦慄の作家の自伝的大作。価850円

サルトル、ボーヴォワールの名著！　九月十八日に来日する現代フランスの二大作家の代表的傑作を新装判で発売いたします！　発売！

殉教と反抗（II I）　サルトル／白井浩司・平井啓之訳　現代のカインといわれる泥棒作家ジャン・ジュネの生涯と作品を中心に、サルトルの実存主義的精神分析法を適用しながら、現代人の運命を論じた大著。価600・550円

レ・マンダラン〈上・下〉　ボーヴォワール／朝吹三吉訳　青春の情熱をレジスタンスに捧げた若人たち――彼等の理想が数年後の厳しい現実の中でいかに変化したか。知識人の苦悩を抉りつつ実存主義の世界観をうちだす。価各800円

第二の性〈全5冊〉　ボーヴォワール／生島遼一訳　社会科学、心理学、古今の文学作品にわたる広汎な文献を駆使しながら、女性の特質を解明し、その人間的存在を社会にうったえた画期的女性論。価各500円（③のみ450円）

"erprobt, bewährt, garantiert"　若い世代に贈る万年筆の最高峰….
無条件で信頼出来る生涯の友　ドイツ製高級万年筆
MONTBLANC　モンブラン
2,000円より各種ございます
お問合せは東京C.P.O.Box 1851 S宛
化学的に研究しつくされた最高のインク…各色揃っています。
MBR

京都公演ご案内
9月22日（木）7時　レッシング「賢者ナターン」
24日（土）7時　ヴィットテンガー「銀河をご存知ですか」（同志社大学ドイツ文化研究会催）
25日（日）7時　シュルテンハイム「ブルジョワ・シッペル」
会場　同志社大学会館
入場無料

「銀河をご存じですか」より左ディーター・ブラマー（飲屋の主人）、右ヨースト・ジートホフ（復員兵）

ドイツ劇団
ブリュッケ
入場の節は日本語による詳しいパンフレットを進呈します。
詳細は下記の所においてある案内書をご覧下さい。
京都ゲーテ・インスティトウート
日独文化研究所
京都日独協会